

「川越市幼児教育振興審議会」が開かれました

1 日時 令和7年1月17日（金） 10:00～12:00

2 場所 川越市立教育センター 203研修室

3 <出席委員>

山本正隆、鈴木悠太、小花菜美子、駒井仁美。吉田由子、横山敦子、遠山知子、大西麗衣子、山崎真之、山村穂高

<事務局職員> 川越市教育委員会学校教育部教育指導課 こども未来部保育課

4 会議次第

(1) 開 会

(2) あいさつ

(3) 議 事 会長 山村穂高 氏

①第47回幼保小連絡懇談会について

②架け橋カリキュラム調査研究事業について

・ 成果発表会について

・ 開発会議にて作成している各種カリキュラムについて

③令和7年度以降の幼保小連携について

(4) その他

(5) 閉 会

5 審議内容及び意見の概要

(1) 第47回幼保小連絡懇談会について

・ 全員異議なく原案どおり承認

(2) 架け橋カリキュラム調査研究事業について

- ・ 前回は各園で独自に取り組んだものを抽出して変化をみていたが、今年はいかがか。
- ・ 3年間の流れの中で、幼児教育幼児保育に取り組んでいただき、小学校でどのように生かしていくかを踏まえ作成したものが今年度のものである。あくまでも例示であるので、完成したスタートカリキュラムを小学校で活用していくことが今後必要であると考えている。
- ・ 川越市架け橋期カリキュラムはとてもよくできており、今後、スタートアップカリキュラムを意識していけるとよい。
- ・ 4月の入学の段階で、泣いている子が一人もいなかったことが成果の1つであると捉えている。
- ・ 園長会の意見として、直接小学校に連絡をしたら断わられてしまった事例がある。希望する園が交流できるよう環境を整えてほしいと考えている。また、保育園は進学先がバラバラになることが多く、人数も少ないため、連携が難しい状況があると感じている。子供が進学する学校ではなくてもいいので、園児が小学校の様子を知ることができる機会を設けられるとよいと考えている。
- ・ 校長会などで呼びかけをしていきたい。
- ・ 小学校が園児の体験を、受け入れ可能な範囲で取り組めないか。架け橋期カリ

キュラムもすべての接続先（園と小学校）をそろえる必要はないと考える。中心
的な保育園との関わりをもてる機会があればよいのではないかと考える。

- ・ICT活用について、施設設備の状況に差がある状況は予測できるので、対面が
一番だと思うが、交流が目的であればICTを活用することも考える必要がある。
- ・コロナ禍で小学校の様子DVDを作成して、園へ提供したこともある。
小学校から、交流の会をするのでご参加いただけますかと園へ案内をし、全園児
がくる園と進学する園児だけが参加する園など園の状況に応じて参加してもら
う機会を設けている。
- ・積極的にやっている小学校に動きを合わせられるようにしてもらえるといいの
ではないか。
- ・お互いが知ることが大切。積極的に交流を図る価値を、園・小学校にご理解いた
だけることが大切で、この3年間の研究成果であるカリキュラムを生かしていけ
るよう周知していきたい。
- ・協力校としてやってよかったという実感がある。小学校への構えを、園側に整え
てもらうことがほとんどだったが、カリキュラムに取り組んでみて、園に近い形、
子供を迎える形を整えることが、子供たちの安心につながり、園側が小学校は楽
しみだねと送り出してもらえる形になると考える。小学校がスタートカリキュラ
ムに取り組むことが大切だと強く感じている。担任の意識の大きく変わる取組で
ある。
- ・コロナ禍で交流が減ったことによる影響のエビデンスを図っているわけではな
いが、子供同士の交流はマストではないと考えている。交流があってもなくても、
適応できる子供、できない子供がいる。
- ・小学校を見る機会は、園児にとっても大きな効果がある。小学生と交流だけで
なく学校見学にも効果がある。
- ・山田小から、ぜひ校内見学をしてほしいと声をかけていただいてとてもよかった。
- ・小学校に見学に来ていただければ、自然に子供同士の交流も実現できる。
- ・10年前と委員の皆様の意識や川越市の取組の進展に大きな喜びを感じる。

（3）令和7年度以降の幼保小連携について

- ・小学校長会・私立幼稚園協会・私立保育園協会・市立園長会等での御意見等も
含め、今後の幼保小の連携の在り方を協議していただきたい。
- ・案1は、前回提案させていただいた、各園・各小学校の状況に応じて連携を進
めていただく、「ゆるやかな推進案」である。園・校の主体性に期待する半面、
状況によっては取組が進みにくい可能性も考えられと想定している。
- ・案2は、ある程度交流の期間等を市として指定することで、より実効性を高め
る案である。園・校の状況として、期間等を指定したほうが、実際に取組が進め
やすい可能性も考えられるため、今回この案を追加した。
- ・事務局としては、2案提示したが、令和7年度は、案1で取り組み、この3年
間の研究成果である「架け橋期カリキュラム等」を周知し、その活用方法につい
て、「子どものよりよい成長を考える研修会」及び「幼保小連絡懇談会」の機会
を生かして行うことを考えている。
- ・令和8年度には、案2のような、より積極的な幼保小の具体的な交流機会の増
加を目指した取組が実現可能か、令和7年度の幼児教育振興審議会で検討いただ
きたいと考えている。
- ・運動会、公開日等を園と共有することを小学校側に進めてもらいたい。小学校
の年次研修で保育や幼児教育に参加する機会を設けてもらえないか。教員に実際
に見てもらうことが大切だと考える。また、幼稚園、保育園の協会側は、先生の
受け入れの機会を設けられないか。

- ・ 文部科学省から、小学校での暴力行為の増加、背景にコミュニケーション能力の低下が言われている。対策として架け橋プログラムに取り組むことを推進している。小学校側に、架け橋期カリキュラムに取り組む意義を周知していきたい。令和7年度に理解していただくことが第一歩だと考える。
- ・ 園から小学校へあがる、学年があがること、見えないことは不安につながるもので、保護者の立場として、このような取組が園・小学校に広まっていくことがとてもうれしいことだと感じる。学年があがることで、個から集団の意識が高まるのは理解できが、小学校でも個に目を向けられるようきめ細やかに教育していただけるようお願いしたい。泣いてない姿の中に、もしかしたら表現できない子供もいる可能性がある。園や小学校の今の体制で、交流の機会など、先生方の負担は大丈夫か心配でもある。できる形で進めてもらいたい。
- ・ 子供の暴力行為の状況などはその背景について家庭環境等も見えていくことが大切であり、子供の行為だけに目を向けるのではなく、育ちの環境も大切である。
- ・ 子供の不安をすべて解消できずに小学校へ進学させることもある。
- ・ 小学校での接続に関して、カリキュラムに取り組むことで、コミュニケーション力の育成につながると考えている。
- ・ 学校は集団を見るという考えは、もう違うと感じている。カリキュラムに取り組んでみて個への意識が非常に高まった。集団を個の集まりであると再認識することが大切。このカリキュラムに取り組む意義・視点をどう伝えていくかがとても重要になってくる。また、ゆるやかに取り組むという視点がとても大切。自分たちから取り組むことに意味がある。園も交流を求めていることや、様々なやり方があることを周知していくことが必要。
- ・ 園に案内を送っても、必ず来てもらえると期待しなくてよい。あきらめるのではなく、案内を続けることで、関係が生まれていく具体的なやり方を共有していくことが大切である。